

鼻アレルギー 診療ガイドライン実践プログラム 概要

本プログラムに関するお問い合わせ先

東京芸術大学保健管理センター内

厚生労働省科学研究事業（免疫アレルギー疾患予防・治療研究）

「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班

住所：〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-8

TEL：050-5525-2457 FAX：050-5525-2534

E-MAIL：office1@guideline.jp

電話問い合わせ受付時間： 月、木 10:00~17:00

お問い合わせはなるべくメールでお願いします。

「ガイドライン実践プログラム」へのご協力をお願い

厚生労働省科学研究事業（免疫アレルギー疾患予防・治療研究）

「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班

主任研究者 須甲 松信

近年、アレルギー疾患患者は増加の一途を辿り、医療を超えて社会的、経済的にも大きな問題となっております。この事態に対して、厚生労働省は今後の基本的対策として次のような目標を定めています。

- (1) 患者家族への自己管理手法の普及と相談体制の確保、
- (2) アレルギー診療ガイドラインの制定とその普及、
- (3) 「かかりつけ医」を中心とした医療体制の確立、
- (4) 学会認定のアレルギー専門医の育成と専門医療機関の確保、
- (5) 看護師・薬剤師・管理栄養士などの医療関係者の教育、
- (6) 適格なアレルギー情報の収集と提供など。

このなかでも、「かかりつけ医」を中心とした医療体制の確立、即ちアレルギー患者が初期治療、安定期には身近な「かかりつけ医」が診療し、重症難治例や著しい増悪時には専門医療機関が対応する体制を築くことを重要政策に挙げています。そのためには「かかりつけ医」の先生方にアレルギー診療にも精通していただき、専門医療機関との病診連携を確立することが期待されています。

厚生労働省科学アレルギー研究事業「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班は、アレルギー非専門の先生方が診療の場で、実際にアレルギー患者様にガイドラインに即した診療をして頂けるように支援する「ガイドライン実践プログラム」を作成いたしました。このプログラムは、成人喘息、小児喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患に対応して以下の要点から成っております。

1. 診療ガイドラインの重症度判定フローチャートおよび治療選択フローチャートを利用した患者様の**長期管理と QOL 調査**。
2. ガイドラインおよび実践プログラムに関するアンケート調査。

これは、フローチャートに従い患者様の重症度に合わせて治療（薬）を選択していただき、それが患者様の QOL の向上に役立ったかどうかをご評価いただく内容となっております。このプログラムにご参加いただくことにより、診療ガイドラインが体験的に学習され、一層ご理解が深まるものと考えております。

つきましては、是非、この「ガイドライン実践プログラム」へのご参加をお願いいたします。調査結果につきましては、ご協力頂いた先生方、地区医師会様および厚生労働省にご報告いたします。

アレルギー性鼻炎「ガイドライン実践プログラム」の手順

1. 患者様へのご説明と同意の確認（必要なら同意書の取得）

↓ 問診、アレルゲンの検索

2. 事前の QOL 調査

↓

3. 重症度判定フローチャートに従い、重症度の判定

↓

4. 治療薬選択フローチャートに従い、治療薬の選択

↓

5. 治療開始：治療薬の投与、生活指導と経過観察

↓ 3ヶ月

5. 治療3ヶ月後、再度 QOL 調査

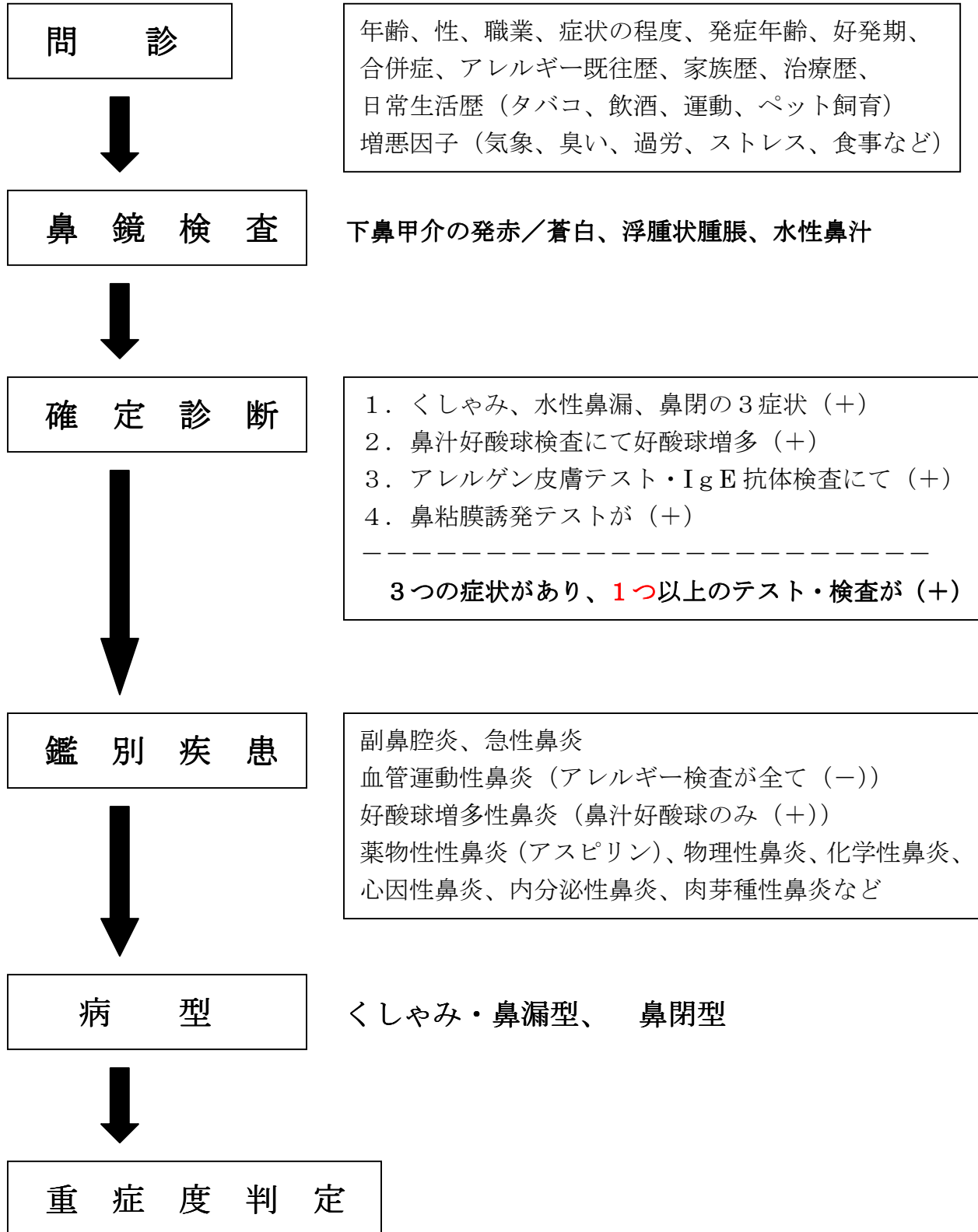
↓

6. 事前 QOL 票と治療後 QOL 票の回収
(回収後直ちに日本アレルギー協会への郵送)

↓

8. 結果の報告

鼻アレルギーの診断・治療の手順



アレルギー性鼻炎の治療 — 花粉症を含むアレルギー性鼻炎の強い方

制作：財団法人 日本アレルギー協会
監修：日本医科大学 耳鼻咽喉科 大久保 公裕

		くしゃみ発作または鼻漏（くしゃみか鼻漏の強い方）				
		1日の平均発作回数・平均擤鼻回数				
		0	5～1回	10～6回	20～11回	21回以上
		-	+	++	+++	++++
病型および重症度	なし	無症状	軽症 ①第2世代抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ①②いずれか一つ	中等症 ①第2世代抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ③局所ステロイド薬 いずれか一つ ①または②に③を併用	重症 局所ステロイド薬 + 第2世代抗ヒスタミン薬	最重症 局所ステロイド薬 + 第2世代抗ヒスタミン薬
	口呼吸はまったくないが鼻閉あり	軽症 ①第2世代抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ①②いずれか一つ	中等症 ①ロイコトリエン拮抗薬 ②局所ステロイド薬 ①②いずれか一つ または併用	中等症	重症	最重症
	鼻閉が強く口呼吸が1日のうちときどきあり	中等症 ①ロイコトリエン拮抗薬 ②局所ステロイド薬 ①②いずれか一つ または併用	重症 局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	重症	重症	最重症
	鼻閉が非常に強く、口呼吸が1日のうちかなりの時間が長い	重症 局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	最重症 局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	最重症	最重症	最重症
	1日中完全につまっている	最重症 局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	最重症	最重症	最重症	最重症
鼻閉						

主なアレルギー治療薬一覧

第一世代抗ヒスタミン薬

エタノールアミン系	
レスタミン	錠、軟膏
レスタミンA	散
強カレスタミンコーチゾン	軟膏
ベナ	錠
ベナパスタ	軟膏
ハイスタミン	注
ダンリッチ	カプセル
プロコン	散、注
タベジール	錠、散、シロップ
ドラマミン	錠
マレイン酸クロルフェニラミン	散、シロップ
アレルギン	散
クロール・トリメト	注
ネオレスタミン	散
ポララミン	錠、散、シロップ、注
レクリカ	錠、シロップ
ベネン	錠、シロップ
ピレチア	錠、散
ヒベルナ	錠、注
フェノチアジン系	
アリメジン	錠、散、シロップ
アンダントール	ゼリー
ピペラジン系	
ホモクロミン	錠
アタラックス	錠、注
アタラックスP	カプセル、散、シロップ
ピペリジン系	
ペリアクチン	錠、散、シロップ

第2世代抗ヒスタミン薬

エバステル	錠
ジルテック	錠
レミカット	カプセル
ダレン	カプセル
タリオン	錠
アレグラ	錠
アレロック	錠
クラリチン	錠

その他アレルギー用薬

メチルエーター遊離抑制薬	
インタール	カプセル、細粒、点眼、点鼻、吸入液、エアロゾル
リザベン	カプセル、細粒、シロップ 点眼
ソルファ	錠、点鼻
アレギサール	錠、シロップ、点眼
ペミラストン	錠、シロップ、点眼
抗ヒスタミン薬系	
ザジテン	カプセル、シロップ 点眼、点鼻
アゼプチン	錠、細粒
セルテクト	錠、シロップ
ゼスラン	錠、細粒、シロップ
ニポラジン	錠、細粒、シロップ
アレジオン	錠、内服液
点鼻薬	
リボスチン	点鼻
トロンボキサンA2拮抗薬	
バイナス	錠
ロイコトリエン拮抗薬	
オノン	カプセル、シロップ
TH2サイトカイン阻害薬	
アイピーディー	カプセル、シロップ

副腎皮質ステロイド薬	
経口、注射、塗布	
コートン	錠
水溶性ハイドロコートン	錠、注
コートリル	錠
ソルコーテフ	注
サクシゾン	注
ブレドニゾン	錠、散、
ブレドニン	錠、水溶性、眼軟膏
メドロール	錠
デポ・メドロール	水懸性
ソル・メドロール	注
レダコート	錠、軟膏、注
ケナコルト-A	軟膏、注
オルガドロン	注、点眼、点耳
デカドロン	錠、注
コルソン	錠
リメタゾン	注
セレスタミン	錠
リンデロン	錠、散、シロップ、注 坐剤、点眼、
パラメゾン	錠
フロリネフ	錠
ハロアート	注
吸入用ステロイド薬	
キューバル	エアゾール
フルタイド	ロタディスク、ディスクス
パルミコート	タービュヘラー
鼻用ステロイド薬	
リノコート	カプセル(パプライザー)
フルナーゼ	点鼻液

気管支拡張薬	
交感神経β2刺激薬	
ボスミン	注、液
エフェドリン	錠、散、注
メチエフ	散、注
フェナミン	錠、散、注
メジヘラー	エアゾール
ストメリンD	エアゾール
プロタノール-L	注
アスプール	液
イソパール・P	カプセル
アロテック	錠、注、吸入液
イノリン	錠、散、シロップ、吸入液
ベネドリン	錠、シロップ、吸入液
アイミロール	エアゾール
サルタノール	インヘラー
ブリカニール	錠、シロップ、注
ホクナリン	錠、シロップ、テープ
ペラチン	錠、シロップ
メブチン	錠、ミニ錠、シロップ エア、吸入液
ベロテック	錠、シロップ、エロゾル
アトック	錠、シロップ
スピロベント	錠、細粒
ブロンコリン	錠
セレベント	ロタディスク、ディスクス
副交感神経遮断薬	
アトロベント	エロゾル
テルシガン	エロゾル
キサンチン誘導体	
テオドール	錠、顆粒、シロップ、
テオロング	錠、顆粒
スロービッド	カプセル、顆粒
ユニフィル	錠
ユニコン	錠
テオドリップ	注
コルフィリン	注
ネオフィリンM	散、注
モノフィリン	錠、散、注
ネオフィリン	錠、散、注
アルピナ	坐剤
テオコリン	錠、散
アストモリジンD/M	錠合剤(腸溶/胃溶)
アストフィリン	錠合剤